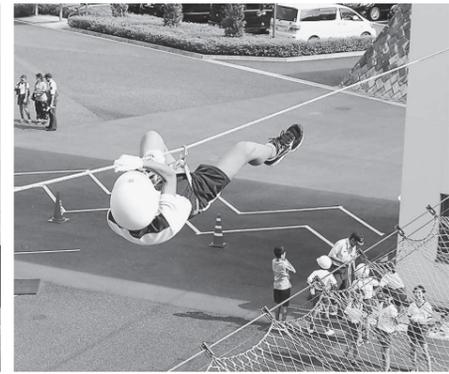


少年少女消防体験入隊

7月26日、小川消防署で町内の小学6年生19名が消防体験入隊しました。実際の火災を想定した119番通報や初期消火、心肺蘇生法などを教わりました。また、放水訓練、ロープブリッジ渡過など消防士にならないと経験できない訓練にも挑戦しました。



ロープブリッジ渡過 恐怖に打ち勝ち力強く渡っています



救急救命士から心肺蘇生法など 分かりやすく教わりました

各地区の夏祭り

町内の各地区の夏祭りが開催されました。地区の行事を通じ、日ごろは顔を合わせない方との触れ合いがあり、地区の繋がりが強まりました。



7月14日、古里地区天王様。みこしが田に入ると豊作に…

8月14日、志賀1区盆踊り大会。やぐらの周りに大きな踊りの輪が広がりました。



8月14日、鎌形地区夏祭り。太鼓打ち鳴らして始まり、数多くのイベントが行われました。



親子クッキング



7月25日、健康増進センターで親子クッキングが行われました。38名の親子が参加し、子ども用の包丁を使って野菜を切ったりお肉を炒めたりと子どもたちがたくさん活躍してくれました。次回は、12月に開催予定です。

観測史上最高 熊谷市で41.1度



7月23日14時23分、熊谷市で国内の観測史上最高となる41.1度を記録しました。

9月に入っても残暑が続きますので、熱中症には十分ご注意ください。

教育相談室

「明治維新150年と教育制度の変遷」

一人一人を確実に伸ばす教育へ

今年、明治元年から数えて150年となります。近代日本が、義務教育という学校教育制度を発足させ、一人一人を大切にする教育を推進する今日までの変遷は次のとおりです。

江戸時代まで、幕府はもとより、諸藩は藩校を設け、武士の人材育成を図りました。江戸時代後期になると、庶民にも教育の関心が高まり、寺子屋でも「読み・書き・そろばん」などの実用的な知識や技能を教えました。

近代化をめざす明治政府は、三大改革の一つとして、明治5年に「学制」を公布しました。

第一の変革期は、学制により小学校から大学までの学校制度を定め、満6歳になった男女の全てを学校に通わせることを義務としたことでした。

務としたことでした。各地の人々にとって校舎建築など財政負担は非常に重かったのですが、教育に対する熱意に支えられ、明治24年には小学校の就学率が50%を超えました。明治40年には97%に達し、義務教育の期間が3〜4年から6年に延長されました。明治時代は学校を制度化し、小学校の義務教育化を達成したと言えるでしょう。大正時代になると、新聞や雑誌の発行部数が急速に伸び、中・高等教育が拡充され、高等女学校への進学率も高まりました。

第二の変革期は、太平洋戦争が終結し、昭和22年の日本国憲法の施行に始まりました。民主主義の教育を示す教育基本法が作られ、義務教育として学ぶ年限がさらに増え、9年と定められました。

第三の変革期は、昭和54年の「養護学校義務制」を取り上げ

たいと思います。これまでは、重い病気や障害のある子供たちに対して就学の猶予や免除の規定があり、学校教育を受けられない子供たちが多く存在しました。「養護学校義務制」により、全国各地に養護学校（現在の特別支援学校）がつくられました。明治維新100年あまりで障害等のある子供たちを含めた、「世界に誇れる義務教育制度」が完成したと言えます。

第四の変革期は、明治維新150年を迎えたまさに「今」であり、現在進行中ととらえたいと思います。臨教審は21世紀に向けた教育改革の方向性を示しました。その中の「個性重視の原則」は「一人一人を確実に伸ばす教育」として引き継がれています。さらに、発達障害などに対応する「通級による指導」が開始されたことは大きな前進でした。少子化にもかかわらず

ず、「通級」指導を受ける人数は平成19年に比べて倍増しています。現在では1・1%（全国で約11万人）が通級指導を受けるといふ広がりが見られます。「一人一人を確実に伸ばす教育」の表れの一つと言えるのではないのでしょうか。

長い夏休みも終わり、学校では学ぶことのできない多くのことを、子供たちは経験したと思います。心身共に一回りも二回りも、たくましく成長したことでしょう。しかし、心と体の成長が上手く伴わず、バランスを崩してしまう場合もあります。ご家庭でも様子をよく見ていただき、お子様の成長・発達などに気になることがありましたら、どうぞご遠慮なく町相談室へご相談ください。

問合せ 教育総務課 62-10823